

69. カトマンズ盆地の王宮広場周辺の生活空間に関する研究
—ダルマシャーラの定義—

1010920089 爲政舞

指導教員 市川尚紀 准教授

ダルマシャーラ パティ サッタール

1. 背景と目的

ネパール、カトマンズ盆地には多くの伝統的建造物が残されており、その中でもカトマンズ、パタン、バクタプルの王宮広場と、スワヤンブナート、ボダナート、チャングナラヤン、パシュパティナートの7つ建築物群が1979年に世界遺産に登録された。王宮広場周辺には伝統的な公共休泊所があり、総称してダルマシャーラと呼ばれている。現在もダルマシャーラは日常的に人が集まり、地元住民の憩いの場となっている一方で、その形態や役割については明確に定義されておらず、住民の間でもその認識は曖昧である。

そこで、現地で資料収集を行い、ダルマシャーラの形態とその機能を分析する。そして、ダルマシャーラの現地調査を行うことで、その意味を定義することを試みる。

2. ダルマシャーラの形態と機能

2.1 ダルマシャーラとは

資料1は国内で、資料2と3はカトマンズ市内で収集した。これらの資料よりダルマシャーラに関する記述を翻訳、抜粋した(表1)。これより、ダルマシャーラは富裕層が無償で提供し、誰でも利用できる無料の休泊施設であることがわかった。元々ネパールは仏教徒やヒンドゥー教徒の信仰心が深く、大きな寺院や有名な寺院が点在している。そのため、インドやチベットを始めとする多くの地域から修行僧がやってきた。彼らは厳しい修行の疲れを癒すために、体を休める場所が必要だった。富を得た者は、宗教的な奉仕に加え、神や自身の為に厳しい修行をしている旅人に向けて奉仕するようになり、ダルマシャーラが造られた。

また、ダルマシャーラにはパティ、サッタール、マンダバ、チャパットの4つの種類があるとされ、バクタプルの踏査の結果パティとサッタールの2種類のみが確認できたので、以降ではこの2種類について考察する。なお、ネパールでは、建物の階数の数え方が日本でいう1階を地階、2階を1階、3階を2階と呼んでおり、本研究でもこの呼び方に従う。

2.2 パティの形態と機能

資料1~3とヒヤリングによって把握したパティの形態

表1 ダルマシャーラの形態と機能

資料	形態	機能
資料1 宮脇檀・中山繁信：神々と出会う中世の都カトマンズ旅・人・建築-ネパールの王宮、寺院、民家を巡って、株式会社エクスマレッジ、2012.2 佐藤正彦：ヒマラヤの寺院-ネパール・北インド・中国の宗教建築、鹿島出版会、2012.1	バクタプルのダルマシャーラはもともと富裕層が融資で建設されたもので、宗教と共に形を変えてきた。各村に十数件以上あり、人が集まる場所に縁側のような形で存在する。集落を形成する一要素でもある。	旅人、巡礼者、商人などが休泊するために利用。
資料2 MICHAEL HUTT:NEPAL A Guide to the Art & Architecture of the Kathmandu Valley, ADROIT PUBLISHERS, 1994	富裕層が融資で建設し、主要道路の交差点、道沿い、水源付近、寺院付近に存在する。寺院よりも数が多い。	無料の休泊所であり、寺院として使われるものもある。
資料3 Wolfgang Korn：Wolfgang Korn The Traditional Architecture of the Kathmandu Valley, Ratna Pastak Bhandar, 1976	インドから伝わった伝統的な建築物で、富裕層が融資で建設。建物部分より基礎の方が古いことが多く、都市や村の中に存在する建築のほとんどがダルマシャーラと言える。巡礼地に沿った水源付近に存在し、その種類は多種多様である。	無料の休泊所であり、旅人、巡礼者、住民が沐浴の後に利用。

と機能を表2に示す。なお、ヒヤリングは、バクタプルの酒屋の店員とバクタプル在住の高校教師の2人に、その利用方法と利用者について聞いた。その結果、パティはダルマシャーラの中で最も存在数が多く、現在でもその数は増えているとされている。また、パティは大きく分けて、独立型、ピロティ型、外付け型の3つの型があるとされ、休憩所や遊び場として利用されている。

2.3 サッタールの形態と機能

資料とヒヤリングによって把握したサッタールについての形態と機能を表3に示す。その結果、サッタールは、宿泊施設付きのパティであるとされている。長距離を数日、数ヶ月掛けて修行する旅人の為に無償で提供している宿泊施設である。また、サッタールは3種類に分類でき、ここではピロティ型、層塔型、家型と呼ぶ。これらに共通しているのは、建物が寺院と繋がっており、神を祀るニッチや祭壇のような台などが存在し、地階はパティ、1階以上は複数の部屋があることである。

3. バクタプルのダルマシャーラ

調査員3人による踏査によって、バクタプルのダルマ

シャーラを地図上にプロット、写真撮影した。また、ナサマナ広場前の主要道路の道路幅、建物の幅と高さなどをレーザー距離計、コンベックスで実測した。調査期間は8月9～14、18、24日である。

踏査の結果、バクタブルのパーティは図1のように8種類に分けることができた。それらは人の集まる場所や目に留まりやすい場所、裏路地など様々な場所に色々な形のパーティが点在していた。

(1)独立型:床と屋根と柱から造られただけの簡素な形のパーティA、正方形の床と二重の屋根で造られたパーティB、

表2 パティの形態と機能

	形態	機能
資料1	パーティには避難所という意味があり、ダルマシャーラの中で最多で最小である。道や広場の要所に存在し、屋根と床をから成る縁側のような形態をしており、独立式、ピロティ式、雁行式がある。床は煉瓦または板敷仕上げで、神が祀ってある所もある。住民や来訪者が休憩、物売り、遊び場等として利用。	住民や来訪者が休憩、物売り、遊び場として利用。
資料2	盆地や道沿いに存在し、開放的な長方形をしており独立式、外付け式がある。1層建てで、床は木板仕上げ、後部壁は煉瓦造で、柱やまぐさがあり、屋根には勾配がついており、16本の方づえがある。観光客の入場料で新たなパーティを造っている。	住民、旅人、巡礼者が休憩、宿泊、会議、市場に利用。王の戴冠式にも利用された。
資料3	各村に1ダースはあり、バタン・バクタブルには100箇所以上存在する。ダルマシャーラの中で最小であり、居住地や道沿い、水源付近、寺院付近に建てられ、木板仕上げの長方形の床は地面より60cm程高く、柱、厚い煉瓦の後部壁、構造壁、けらば、スリーパーウォールがある。屋根裏がある場合もある。屋根は切妻屋根、寄棟屋根(独立タイプ)、指掛け屋根(外付けタイプ)で、壁には偶像、石油ランプ用の隙間がある。新しいものの中には祭壇が設けられているものもある。	住民や旅人が休憩、ゲーム、集会、宗教の場、洗濯、納屋として利用。
ヒヤリング	80%以上のパーティが古くからあり、道の要所や水場付近に造られている、3方向に開けた空間である。平屋で南に面し、16本の柱で屋根を支えている。芸術性が高く美しい彫刻が施されている。	住民や来訪者が休憩に利用。住民が祭りの時に肉を焼く

独立型	A	B	C
	14,41,71,84,87,88,90,92,93,116,122	12	11,35,80,148
ピロティ型	D	E	
	2,6,8,15,16,26,33,51,66,67,76,94,103,104,133,155,162,163	1,17,30,31,65,73,82,98,105,126,140,158,160	
外付け型	F	G	H
	7,23,32,40,42,46,52,60,69,75,91,102,106,109,110,118,124,143,156	24,38,99,101,108,115,130,132,139,141,151	22,53,96,97,112,152

図1 パティの分類

Aより天井が高く、機能を持たない屋根裏のような装飾をつけた形のパーティCの3種類がある。道幅の広い場所や広場の一角に存在。

(2)ピロティ型:2面以上がピロティのパーティDと1面のみがピロティのパーティEの2種類がある。

(3)外付け型:既存の建物が1面でのみ接しているパーティF、2面以上で接しているパーティG、パーティFの上部にバルコニーの機能が付いたパーティHの3種類がある。道幅の狭い場所に存在。

4. 結論

ダルマシャーラは、富裕層が旅人や修行僧に休息の場を提供するために造られた施設で、宗教的な祭り事の会場、露天、遊び場などとしても使われていることがわかった。パーティ、サッタール、マンダバ、チャパットの4種類があり、そのうち、パーティとサッタールの2種類がバクタブルで確認できた。パーティは最も数が多く住宅街や郊外などの至る所に存在し、大きく分けて独立型、ピロティ型、外付け型の3種類がある。サッタールは存在する数が少なく、パーティの機能と宿泊機能がついたもので、ピロティ型、層塔型、家型の3種類が存在し、バクタブルではピロティ型と家型の2種が存在することがわかった。

表3 サッタールの形態と機能

	形態	機能
資料1	大きな寺院の門前に多い。パーティが2層になったもので、背後に厚い壁と階段があり、地階の縁側部分に柱、壁面に神を祀ったニッチがある。	休憩の意味を持ち、住民、修行者などが・遊び場、団欒、休憩、農作業(地階)、寝泊り(1階)として利用。
資料2	数層の建物で、地階はパーティの形。上の層程小さく、寺院のような装飾。永く使えるように管理されている。	養老院(almshouse)が語源。長時間の休憩として利用。
資料3	パーティが2層になったもので3種類に分類できる。地階、ホール、間取りの計画が各々で特徴を持つ。内部に偶像・神社があるものは新しい。	旅人、長期滞在者(グル、サドゥ)が利用。
ヒヤリング	村のエントランス付近、神様の前、貿易商の多い通り、ヒティ付近に多い。2~3層から成り、地階にはパーティがある。キッチン、テラス、寝室がある。	休憩所の意味を持ち、遠方からの来訪者、家に帰れない人が宿泊として利用。

ピロティ型	 62,135	地階がパーティ。1階が宿泊所である。
層塔型		屋根が地階と1階の両方にあり、地階は4面全て開放的なパーティとして、1階は集会所などの部屋として利用される。
家型	 19	寺院と一体になっており、建物の半分が寺院と共有。地階にはパーティと2つの部屋がある。1階には部屋が複数存在。部屋の周囲にはバルコニーのようなものがある。2階にはホールと部屋がある。

図2 サッタールの分類